

発行所 東京都防衛協会
〒162-0844

東京都新宿区市谷八幡町13番地
東京洋服会館9階

TEL: 03-6280-8427

FAX: 03-6280-8428

e-mail: info@tda.tokyo

HP: www.tda.tokyo



東京都防衛協会会報

第26号 (令和4年(2022年)10月1日)

○東京都防衛協会は、区市町村の民間の有志で構成されている地区協会を中心に、昭和41年3月に結成された任意の団体です。

○「自分の国は自分で守る」の気概をもって、広く都民の間に防衛意識の普及高揚を図るとともに自衛隊を激励支援してその充実発展に寄与するような広範な活動を続けています。

頭号師団

精強第一師団

第1師団(師団長 児玉恭幸陸将)は昭和25年警察予備隊発足直後の翌年、第1管区隊が越中島に誕生し、その後習志野を経て現在の練馬駐屯地へ移駐し、昭和37年に第1管区隊から第1師団へ改編され現在に至っている。政経中核師団へと改編され現在に至っている。本稿ではこれまでの第1師団の輝かしい活動について紹介する。



師団長 児玉恭幸 陸将

第1師団は陸上自衛隊の頭号師団として東京都を始め神奈川県・千葉県・埼玉県・茨城県・山梨県・静岡県の一都六県の防衛警備、災害派遣、国民保護等を現在約6,300名の隊員をもって担当し、これら多様な任務に対応すべく教育訓練を主体とした隊務に取組んでいる。この他、国費・公費の来日に伴う特別儀仗や自衛隊記念日観閲式といった国家的行事への参加、近年では豪雪被害に伴う災害派遣、東日本大震災における災害復旧や給食・給水・入浴等の支援、山梨県内森林火災に対するヘリコプターで



羽田空港における第1特科隊による祝砲

の延焼状況の確認と空中消火活動を実施し日頃の訓練成果を発揮している。また、国際貢献活動においてもゴラン高原での後方支援活動、イラク復興支援活動、国連ネットワーク政治ミッション、ハイチ国際平和協力業務等に参加している。



ジブチでの警備行動に任ずる隊員

第1特科隊は羽田空港においてスペイン国王の来日に伴い礼砲を実施。日本とスペインの親善関係の一層の深化に寄与した。

国際貢献活動
第1師団は派遣海賊対処行動支援(DGPE)第5次要員として職務を遂行した。活動拠点となったジブチは日本から約1万km離れたアフリカ大陸の北東部のソマリア沖アデン湾に面した位置に有る。ここは欧州や中東・東アジアを結ぶ重要な交通の要衝であり、日本のみならず国際社会にとって重要な地域であり、安

全確保に当たる為、司令部・業務隊・警備隊の要員として第34普通科連隊が主力となっており、統合任務部隊として海上自衛隊と共に各国軍隊と協力しながら職務を遂行している。

災害派遣活動
第1師団は自然災害を始めとする災害発生時に地方公共団体等と連携・協力して被災者や遭難した船舶・航空機の捜索・救援、医療、防疫、給水、人員や物資の輸送等の様々な活動を行っている。

令和4年度 事務局長会開催
東京都防衛協会では7月13日、対象となる37地区協会及び女性部会・青年部会の事務局長を一堂に会して、令和4年度の東京都防衛協会からの情報発信・お願い事項①東京都防衛協会加盟地区協会の現況②地区協会と担当隊区部隊の対応③基地・駐屯地等へのミニ研修の推奨④会報の送付先及び送付部数⑤東京地方協力本部からのお知らせとお願い⑥東京都防衛協会HPの現状と活用⑦地区毎のチームミーティングの課題⑧HP・ミニ研修の活用による会務運営及び

会勢拡大
②地区協会と隊区担当部隊との連携
東京都防衛協会と地区協会等並びに地区協会等相互の情報共有は所期の目的を達成すると共に23区、北多摩、西・南多摩・島嶼の3チームに分かれて前述のテーマで議論し、チーム代表による発表により相互に会務運営の資を得る事が出来た。

東京都防衛協会 事務局

防衛サロン

ウクライナ戦争に見る認知領域の戦いについて

常任理事 岸川 公彦



ロシアによるウクライナ侵攻が開始された頃、「ロシアはハイブリッド戦を遂行している」という報道を良く耳にした。「ハイブリッド戦」とは、「政治的意図を達成するために、軍事的な手段だけでなく、政治、経済、外交やさらには情報戦、心理戦などの様々な手段を組み合わせて行う戦争の手法」と言われている。そしてこの「ハイブリッド戦」において、核心的な役割を担っているのが、「認知領域の戦い」(以下「認知戦」)であろう。「認知戦」とは、人間の「認知」に影響を与え、その「意志」に影響を及ぼし、戦略的に有利な環境を作り、状況によっては戦うことなく戦勝を獲得しようとする戦い方

であると言われている。この「ハイブリッド戦」は、2014年のウクライナ紛争においてロシアが行ったことが明らかにされている。NATOの分析レポートによると、ロシアは、侵攻の数年前からウクライナの情報を

を併合するに至ったと分析されている。まさに「21世紀の新しい戦争」と言われる「ハイブリッド戦」が成功した好例と言える。では、今回のウクライナ戦争では、ロシアの「ハイブリッド戦」はどの

な情報の開示による抑止があったと言われている。「開示による抑止」(Deterrence by disclosure)として、報道等において紹介されているもので、一例をあげれば、ロシアの侵攻開始前の2月18日、バイデン米大統領が、

「侵攻は数日中にもある。プーチン大統領は侵攻を決定したと確信している」と発言するなど、多くの機密情報と思われる情報が意図的に開示されている。これらの機密情報の開示は、結果としてロシアの侵攻を抑制できなかったという指摘もできるが、ロシアを非難・牽制するという意味において十分

効果があつたと評価することもできる。二つ目は、ウクライナ、特にゼレンスキー大統領自らによるSNS等を活用した積極的な情報の発信が指摘されている。ロシアの侵攻開始直後の2月25日、首都キーウからゼレンスキー大統領は、「私たちはまだここにいます。ウクライナを守ります」とのメッセージを自撮動画で配信し、国を守る固い決意を全世界に発信した。また、4月4日には、ゼレンスキー大統領は、ロシア軍の撤退後に多数の遺体が発見されたブチャを視察し、国際社会に対してロシア軍による「ジェノサイド(集団殺害)」を認定するよう訴え、一気に国際社会世論を味方につけた。これらのウクライナによる戦略的な情報の発信によって、ウクライナの国内世論を味方につけただけでなく、国際社会の支持の獲得にも成功したと言われている。他方で、ウクライナ戦

争が開始以降、既に半年が経過した現在、国際社会のウクライナ戦争への関心も少しずつ薄れつつあるように思われる。このように、認知領域において、影響を維持することとは、影響自体の良否にかかわらず、極めて困難であるとの指摘もある。以上、ウクライナ戦争初期の「認知戦」を焦点とした現代において、戦略的に情報を発信し、人々の「認知」に影響を及ぼし、自国世論や国際世論の支持を獲得することの重要性を示していると思われる。米中の戦略的競争が台湾をめぐる一層緊迫化をますます、民意によって国内政治が揺れ、対外政策の一貫性に欠ける傾向にある我が国にとって、今回のウクライナ戦争における「認知戦」から学ぶべきものが多くあるように思われる。

第63次南極地域観測協力
<https://www.mod.go.jp/msdf/operation/antarctic/nankyoku63/>

東京地方協力本部
<https://www.mod.go.jp/poo/tokyo/saiyou/koutoukouka/messeiji/index.html>

防衛省・自衛隊のホットな情報のページ

海自オフィシャルサイト

東京都防衛協会では防衛省本省並びに自衛隊の部隊及び機関におけるホットな話題について本コーナーでQRコード及びURLを使って紹介し、気軽にアクセス出来るようにしています。ご利用下さいませようお願い致します。

隊員及び家族の皆様の遺言アドバイザー
柴田 純一 行政書士 (遺言・相続 専門)

遺言書がなく揉める相続。揉めたら全員が敗者です。勝者は一人もいません。あなたの遺言書があなたの家族を守ります。「遺言書」づくりをサポート致します。

遺言書は、あなたと家族の絆の証明書!!

行政書士 柴田法務会計事務所
〒173-0035 東京都板橋区大谷口2-24-13 受付時間/10:00~18:00
TEL 03-6780-1408 FAX 03-6780-1409
E-mail/info@yuigonsyobiz http://www.yuigonsyobiz/

明治記念館

婚・宴会のご用命をお待ち申し上げます
法人営業部 担当 武本 茂 (陸OB 防大27期)
TEL: 03-3746-7711 Mobile: 080-2384-9560
E-mail: s.takemoto@meijikinenkan.gr.jp

相続・事業承継 対策と税務申告
税理士・事業承継士 秋田 耕治郎

「命の綱」を繋ぐお手伝い
相続も事業承継も早めの準備が重要です。私たちは、皆様のご大切な想いと財産を未来へと繋ぐお手伝いをさせていただいております。真心と感謝と祈りを込めて。

秋田会計事務所 | 相続支援センター
千代田区水道橋相談室
〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-16 三弘ビル3F
TEL 03-3263-3458 FAX 03-3263-3459
E-mail: akita@tkcnf.or.jp URL: http://www.akita-kaikai.jp

協賛広告有難うございます!

令和4年度第一師団 訓練検閲開始

あらゆる困難を克服して任務完遂



第1師団は5月31日から6月8日迄の間、北富士、東富士演習場等において、第1普通科連隊等

の対抗部隊として、第32普通科連隊、第1特科連隊、第1高射特科大隊及び第1通信大隊に対して訓練検閲を実施した。

本訓練検閲は「徒歩行進に引き続き陣地攻撃」を訓練科目として実施し、更に32普通及び1特に対しては「対ゲリラ・コマンドウ」についても課目として付与しその練度を確認した。訓練検閲実施にあたり師団長(師団長)は「勝利への執念」、「創造的破壊」、「非戦闘損耗の極限」、「自ら学べ」の4点を要請した。

私たちの誇り 動く自衛隊!



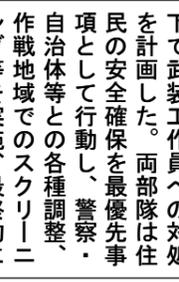
6月2日から3日の朝にかけて32普通連は約40km、1特、1高大及び1通大は30kmの徒歩行進を実施し、引き続き東富士演習場に展開する敵先遣戦闘団(1普通連基幹)



攻撃開始に先立ち、1特及び1高大は北富士演習場に陣地占領、また1通大は大隊主力を同じく北富士演習場、一部を師団主力が終結する松本駐屯地に展開されると共に、高ポツチ山、甘利山及び富士スバルラインの要地に中継所を開設して、先遣32普通連と師団主力との間の指揮連絡を確保する為のシステム通信組織を作戦間維持運営した。

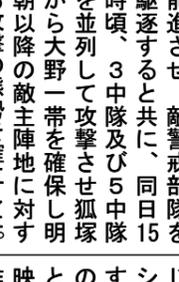


3日、32普通連は1中隊を平塚道沿いに、4中隊を戦車道沿いにそれぞれ前進させ、敵警戒部隊を駆逐すると共に、同日15時頃、3中隊及び5中隊を並列して攻撃させ孤塚から大野一帯を確保し明朝以降の敵主陣地に対する攻撃の態勢を確立した。



この際、1特は32普通連の攻撃発揮の条件を作為する為、敵第一線陣地及び敵砲迫部隊を重視して制圧すると共に、積極的な対砲迫攻撃の実施により、敵砲迫の火力発揮を妨害し無力化させた。また1高大は、近SAM1コ分隊を32普通連に、短SAM2コ小隊及び近SAM1コ分隊を1特にそれぞれ同行させて対空援護を実施した。

3日、32普通連は1中隊を平塚道沿いに、4中隊を戦車道沿いにそれぞれ前進させ、敵警戒部隊を駆逐すると共に、同日15時頃、3中隊及び5中隊を並列して攻撃させ孤塚から大野一帯を確保し明朝以降の敵主陣地に対する攻撃の態勢を確立した。



その他、1通大は師団長より「作戦の終始を通じて戦略的コミュニケーション(以下SC)に資する映像を作成し、師団の作戦環境を有利にせよ」との指針を受け、必要な映像資料の撮影を行い、作戦間4本のSC映像を作成・編集し、師団司令部に提出した。



4日、32普通連は1特の攻撃準備射撃の下、連隊攻撃目標に向け攻撃を開始、5日夕には目標地域の確保に成功した。



6日、32普通連が師団長に事後の防衛構想について報告した時点をもつて、本訓練検閲の状況を終了した。

地本コーナー

学生新聞への取材協力で自衛隊をPR



「学生新聞」は、大学生自らが企画・取材・執筆を担当しており、4月と10月の年2回、10万部を発行されているもので、昨今の国際情勢から自衛隊の活動について理解したいとの学生からの要望により、陸上自衛隊練馬駐屯地及び航空自衛隊入間基地の協力を得て取材に対応した。

東京地本では、今後もあらゆる機会を捉え、防衛省・自衛隊の魅力を広く広報し、自衛隊の活動に関する理解の拡大に努めていくとしている。

自衛隊東京地方協力本部は6月16日、退職自衛官の雇用と興味のある企業9社の企業主等13名に、社説業務等に関する説明の理解促進を図るため、朝霞駐屯地において「企業主等に対する 支援広報」を開催した。

当日は、自衛隊の概況説明の後、輸送学校、第1施設大隊、朝霞駐屯地業務隊、第104全般支援隊等を見学し、輸送科職種の説明を受けて、隊員が各種車両を整備している様子を見て技術練度を認識すると共に、陸上自衛隊広報センター等に見学では、フライトシミュレーターを体験し、展示装備品等について熱心に質問していた。

また、東京地本支援課隊員と企業側参加者との個別懇談を実施し、企業側は「再就職に当たり譲れない条件は何か」、「自衛官を雇用するにはどのような手続きが必要なのか」等の具体的な質問を行い、自衛官の就職

支援に理解を深めている様子だった。支援課は、定年退職自衛官の多数期を迎えるにあたり、求人の量と質の確保の為、令和4年度からの新たな取組みとして定期的に支援広報を実施し、継続して新規企業開拓を図っていくとしている。

本説明会は日頃から大学へ足を運んで自衛隊をPRし、大学側からも学生に対しての情報発信して頂いた事から13名の参加者を得ることが出来た。当日は参加者と年齢の近い国分寺募集案内所で臨時勤務中の小野寺空士長及び同出身で那覇基地所属の弓田空士長が、参加者に積極的に話しかけ、和やかな雰囲気の中で説明を実施すると共に、弓田空士長はソフトボール部出身であることを活用し、後輩のソフトボール部員に直接声掛けをするなど大活躍であった。説明を聞いた参加者からは「泥まみれのイメージがなかったが、事務職も多く、女性が働きやすい環境が整っていて安心して働く事ができると分かり、受験しようと思っ」等の感想があった。国分寺募集案内所は今後も出身校のリクルーターを活用し、学校開拓を推進していく、学校開拓を東京地方協力本部 渉外広報班

活動最前線!

豊島区



豊島区防衛協会は、平成18年4月7日、「自分の国は自分で守る」という防衛意識の普及高揚の為、自衛隊に協力しその充実発展に努めることと、青少年の健全な育成に努める事を目的として、後

藤和雄氏を会長として発足しました。発足当時の会員数は40名程度でありましたが、誕生から約14年が経った現在の会員数は約90名にまで成長しました。

例年ですと毎年6月の総会において前年度活動・決算報告、当年度事業・予算計画、役員人事等の承認を行っておりましたが、この3年間は新型コロナウイルス感染症拡大、特に最近では変異型ウイルスによる感染第7波の影響により、協会としての活動が殆ど行なえない状況にあります。来年少しは通常の活動が出来るように祈りつつ、会長以下、一丸となって諸準備を行っているところです。我が協会は今後とも「自衛隊と市民の架け橋」としての役割をしっかりと

果たして参りたいと思っております。

3年ぶりの「みたか商工まつり」が7月16、17日に三鷹市役所敷地内で開催され、三鷹市防衛協会は自衛隊東京地方協力本部西東京地域事務所の多大なる協力をいただき自衛隊のPRブースを出展しました。

今回は1/2トラックの展示があり、子どもたちは運転席に座って記念撮影で「満悦。大人の皆さんも珍しい車両を間近に見ることができて楽しんでおられました。またまお祭りに訪れていた若者からは入隊試験などに関する質問を頂いた

りもして、出展の目的でもある自衛官募集活動にも役に立ったと思います。



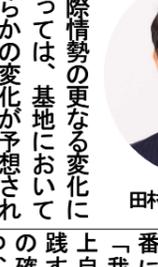
三鷹市では9月の「国際交流フェスティバル」と、10月の「三鷹わんぱくスポーツDAY」の二つの大きなイベントの開催が予定されており、それらにも西東京地域事務所に出展していただく予定です。

等への出展を進めて参ります。

福生市防衛協会は、平成24年に航空自衛隊横田基地の運用が正式に開始されて以来、なお一層の支援と協力を推し進めるべく活動しています。

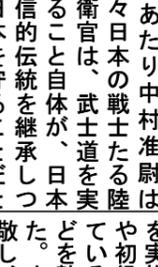
さて、今年2月にロシア連邦は、ウクライナへの軍事侵攻を始め、その戦火は激しさを増しています。こうした行為は、ウクライナ国民の自由、生命、財産を奪い、国際社会では断じて許されなものである。わが国を含む世界の平和と秩序を脅かすもので、明らかに国連憲章に違反する行為として断じて容認でき

るものではありません。福生市は米軍横田基地を抱えており、段階的な配備が決定しているCV22オスプレイが現在6機配備されています。今後、



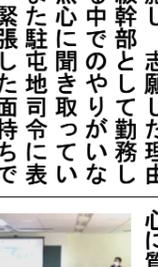
国際情勢の更なる変化によつては、基地において何らかの変化が予想されます。コロナ禍のあり、会員同士でのコミュニケーションがなかなか難しい状況ですが、関係各位の皆様からご意見を伺いながら、防衛の意義・役割等、考えを深めて参りたいと思っております。

8月1日付で第8代師団最上級曹長に中村准尉が上番した。



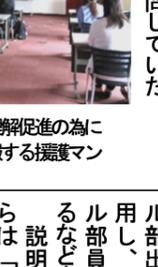
中村准尉は第1偵察隊で最上級曹長として勤務した後、師団最上級曹長に上番した。上級曹長に上番した。一番にあたり中村准尉は「我々日本の戦士たる陸上自衛官は、武士道を実践すること自体が、日本の確信的伝統を継承しつつ、日本を守るのだ」という教えを私は受けてきました。自ら日本伝統文化の体現者となり、指揮官補佐に徹し、健全かつ実戦に即応できる隊員の育成に力を尽くします」と決意を述べた。なお、7月31日付で下番した大久保前最上級曹長は、東部方面隊総監部付隊(朝霞)へ栄転した。

駐屯地には、まず練馬駐屯地において自衛隊の任務と多様な職種について説明を受け、部隊整備工場での勤務状況や必需品倉庫を見学すると共に、一般大学出身の幹部自衛官へのインタビューを実施し、志願した理由や初級幹部としての勤務している中でのやりがいなどを熱心に聞き取っていた。また駐屯地司令に取材を求めている。



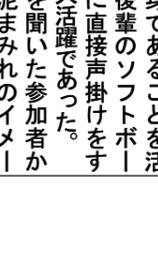
入間基地では、基地の概要説明を受けた後、当初、警備犬の訓練風景を見学し、次いでC-2輸送機の機体見学と運用態勢について説明を受けると共に、一般大学出身で飛行要員の幹部自衛官と、航空学生で入隊した幹部自衛官へインタビューを行い、勤務態勢をパイロット

自衛隊東京地方協力本部は6月16日、退職自衛官の雇用と興味のある企業9社の企業主等13名に、社説業務等に関する説明の理解促進を図るため、朝霞駐屯地において「企業主等に対する 支援広報」を開催した。



東京地本では、今後もあらゆる機会を捉え、防衛省・自衛隊の魅力を広く広報し、自衛隊の活動に関する理解の拡大に努めていくとしている。

本説明会は日頃から大学へ足を運んで自衛隊をPRし、大学側からも学生に対しての情報発信して頂いた事から13名の参加者を得ることが出来た。当日は参加者と年齢の近い国分寺募集案内所で臨時勤務中の小野寺空士長及び同出身で那覇基地所属の弓田空士長が、参加者に積極的に話しかけ、和やかな雰囲気の中で説明を実施すると共に、弓田空士長はソフトボール部出身であることを活用し、後輩のソフトボール部員に直接声掛けをするなど大活躍であった。説明を聞いた参加者からは「泥まみれのイメージがなかったが、事務職も多く、女性が働きやすい環境が整っていて安心して働く事ができると分かり、受験しようと思っ」等の感想があった。国分寺募集案内所は今後も出身校のリクルーターを活用し、学校開拓を推進していく、学校開拓を東京地方協力本部 渉外広報班



支援に理解を深めている様子だった。支援課は、定年退職自衛官の多数期を迎えるにあたり、求人の量と質の確保の為、令和4年度からの新たな取組みとして定期的に支援広報を実施し、継続して新規企業開拓を図っていくとしている。

東京女子体育大で自衛隊説明